

2-16 移動式プラネタリウムを呼ぶには？

イベントを行いたい会場に移動式プラネタリウムの公演を呼ぶこともできます。星空や宇宙への理解を深めるドーム空間であり、天体観望会前の事前学習にも使えます。突如現れるドームが開催地で注目的になることもあります。

ステップ1 公演方法を考える

イベントの日程やスタッフ、資金、場所を考慮の上で、以下のような実施形態があります。

1. 移動式プラネタリウムの公演を依頼する *1
2. 自作でプラネタリウムとドームを作成する *2
3. (可能なら) 移動式プラネタリウムを購入する *3

特にプラネタリウムとして大切なのは、ドームを設置する会場の広さです。一度に数十人が観覧するためのドームを置くには、最低でも直径5メートル高さ5メートル近いスペースが必要となります。以下、実施の手順をご紹介します。



ステップ2 移動式プラネタリウムを準備する

1. 移動式プラネタリウムの公演を依頼する場合には、イベントの形態や目的、会場、参加者の有料/無料の要項を明確にし、実施事業者に打診します。
2. 自作する場合には、事前の確認も含め、イベント開催の告知前にプラネタリウムとドームの自作を行い、テストをしておきましょう。
3. 移動式プラネタリウムを購入する場合、納品まで時間がかかる場合がありますので、十分な時間を確保しておきましょう。

移動式プラネタリウムもさまざまです。暗い部屋が必要であったり、電源の必要数、天井の高さなどの条件がまちまちになりますので、必要とされる条件の確認が大切です。

ステップ3 実施内容を決める

- ・ 1回の収容人数は何名か？
- ・ 対象をどのように設定し、どんな内容がふさわしいか？
- ・ 誰が解説を行うのか？（場合によっては解説者の手配をしましょう）
- ・ 何分間くらいを想定しているのか？

を明確にしましょう。

そして、安全確保の方法やスタッフの配置、不測の事態（多くの参加があった時の参加者整理は？入場の誘導は？ 火災などの非常時は？）なども、あらかじめ決めておきましょう。

ステップ4 広報を行う

不動の施設と違って積極的にお知らせしないといつどこでやっているのかわかりにくいものです。うまく話題を作れば注目のイベントとして多くのメディアが取材に訪れることもあります。

ステップ5 開催する

開催前には、不測の事態に備え、早めに設置しておくことが大切です。

そして、参加者も明るいところからドームに入ると目が順応せず真っ暗に感じます。まぶしさを感じない赤いペンライトなどでの誘導など、薄暗く混雑した中でも安全性には気を配って対応できれば、素敵な思い出に残るひとときとなることでしょう。

脚注

*1 移動式プラネタリウムの公演

科学館等の施設が所有している場合もあります。ただ、施設が所有する場合、その事業目的に沿っての実施であることが多く、実施する形態やイベントの性質によって、必ずしも対応できないこともあります。所有している館の実施状況などを確認の上、相談されるとよいでしょう。

その他、移動式プラネタリウムの公演を請け負っている事業者もあります。費用は状況により異なります。

- (例) ・横浜モバイルプラネタリウム <http://www.yokohama-mobilepla.jp/>
・東京モバイルプラネタリウム <http://www.mobile-planetarium.com/>

*2 自作できるプラネタリウム

プラネタリウム本体として、小貫良行氏（理化学研究所）が考案したプラネタリウム製作キット「エトワール」(<http://etoile-t.hp.infoseek.co.jp/>)をはじめ、いくつか書籍の形態で発売されているものなどもあります。

ただ、併せて半球状のドームの制作・あるいは購入が必要となります。ビニールを用いたりしてのエアドームや、骨組みを作って布を張るなどのさまざまな自作方法があります。

*3 移動式プラネタリウムの購入

理科教材としての製品（例：渡辺教具製・天体投影機 [<http://blue-terra.jp/>]）や、プラネタリウムメーカーによる小型投影機の販売（例：五藤光学研究所製・NEX [http://www.goto.co.jp/planetarium/pla_nex.html]）などがあります。ただ高価ですので、継続的な利用を想定した上での導入が必要となるでしょう・・・

参考文献

ドーム制作方法について・・・学校現場での簡易プラネタリウム導入についての提案（天文教育研究会 第21回集録 亀谷光）など (<http://www.tenkyo.net/kaiho/syuroku/21th-meeting.html>)